

# 2019年度学校評価結果と2020年度重点目標

2020年4月  
恵泉幼稚園

## 1. 本園の教育理念・教育目標・教育方針

### 【教育理念】

恵泉幼稚園は、高橋誠一が、「神は愛である」というキリスト教の教えに立ち、1935年（昭和10年）に設立した幼稚園です。幼いときに、自分が愛され、守られていることを感じることができ、幼児の豊かな心、健康な体、考える力を育みます。生きる力の基礎を培い、子どもとともに、育ち合う園であり続けます。

### 【教育目標】

意欲のある子ども  
思いやりのある子ども  
感性豊かな子ども  
感謝できる子ども を目指します。

### 【教育方針】

一人ひとりの個性を生かし、興味・関心に合った環境を作る  
ありのままの自分が受け入れられていることを知り、遊びを中心とした生活の中で思いやる心を育てていく  
自然豊かな広い園庭で、季節に触れ、美しさや尊さを感じる  
祈りを通して、神様に愛され、守られ、たくさんの恵みを与えられていることに感謝する心を育てる

## 2. 2019年度の振り返りと2020年度重点的に取り組む目標・計画

### 【2019年度、重点的に取り組む目標】

主題『新しい教育観に求められる視点を理解する』

—入園から卒園までの3年間の成長（発達段階）を見据えて取り組む—

- ・人として育っていく時期に、子どもが主体となった遊びを通して育つ力に着目する。  
「身体を使う力」「人と関わる力」「考える力」

### 【2020年度、重点的に取り組む目標】

- ・「自分でできるようになった」ことを喜び、一人ひとりの自信に繋げ、自立心を育てる。  
—おうちの方と協力して—
- ・年少組：お友だちと一緒に遊び、生活する楽しさを感じていく。

【2019年度、重点的に取り組む目標】を振り返りました。

：重点目標

「人として育っていく時期に、子どもが主体となった遊びを通して育つ力に着目する。

「身体を使う力」「人と関わる力」「考える力」（3つの力を総称して育つ力と表記）

「身体を使う力」は、身体の機能を使う運動的な能力に限らず、自然と関わり、生命を5感で感じる感性の豊かさなども身体能力として含まれます。

「人と関わる力」は、周りの人と直接関わり、友だちと遊び、力を合わせ、ルールを守るなどを通して、対人関係能力のベースを育てていきます。

「考える力」は、知識習得の以前に、ある事象に興味関心を持ち、そこから、色々なことをじっくりと考えていくプロセスの中で、考える力は育っていきます。

このような意味を持つ育つ力は、相互に関わり合い、子どもたちの内面に働きかけ、心の土台となる人間としての成長を促していきます。

そこで、心の土台を作る幼児期に、育つ力が身につくためには、幼児期の特性を踏まえることが大切です。一人ひとりが周りとは比べられることなく安心して遊び、主体的な遊びを通して思いやりを育て、一人ひとりが受容され、共感され、愛されることを基盤にした幼稚園環境の中で、必要な経験が積み重ねていかれるような教師の配慮が重要になります。

特に、子どもが主体となって遊ぶためには、「熱中して遊ぶ経験」が必要です。教師は、熱中して遊んでいる子どもたちにそっと寄り添い、やりたい気持ちを大切に見守りながら、個々の興味関心が他の子どもたちにまで広がるような方向性を持って関わります。

このような配慮をしながら養われた子どもたちの主体性は、一人ひとりにとっての園生活を活気づかせ、意欲・協調性・諦めない粘り強さ・集中力・自立心などのさまざまな力を身に付ける土台になります。また、集団生活ならではの「育ち合い」の促しにも繋がります。

：まとめ

「子どもが自分の興味関心に誘発されて、夢中で遊んでいること」が、子ども主体の遊びと言えます。

しかし、子どもの遊びは初めから興味関心を持っているとは限りません。発達段階によっては自分の好きなことを探す時期で、興味関心が次々に変化していくこともあります。また、集団での遊びが滞っている場面では、発展するように教師がきっかけを作ることもあります。教師が用意した遊びでも興味を示し、友だちと一緒に遊ぶことに繋がれば、そこから主体的な遊びに展開していく可能性もあることは押さえておく必要があります。

幼稚園教育は、子どもが持っている力や芽生えようとしている力を引き出し、可能性を広げてあげることです。人としての心の豊かさに通じる力が伸びていくためには、子ども一人ひとりの思いが受けとめられた環境と、仲間・時間を保障し、興味に合わせた遊びの展開を適切に支える教師の姿勢が大事になります。子どもが「やりたい」という気持ちから始まる主体的な

遊びの中で、身についた力が最大限活かされ、その後の学校教育の学びに向う力に接続され、将来の社会生活に活かされる力として見据え、保育に取り組むことの重要性を深めました。

恵泉幼稚園の教育理念に示されている「豊かな心、健康な体、考える力を育み、育ち合う」ということの実現は、「**子どもが主体となった遊び**」を大事にしていくことで、確かなものになると確信しています。

これからも教育理念を目指し、教師も新たな学びを深めて、子どもと共に「育ち合う」仲間として励んでいきたいと思えます。

### 【2020年度、重点的に取り組む目標】の設定について

2019年度、重点的に取り組んだ目標の実践を通して、「**熱中して遊ぶ経験**」は、子どもが主体となって遊んでいる姿であり、「幼稚園は楽しいところ」という実感を生み出していきます。子どもたちの心に湧いたその思いは、ますます、やりたい気持ちや好奇心を高め、園生活にめりはりをつけ、**自立心**にも繋がっていきます。

そこで、次の3点を幼稚園とおうちの方が共有し、子どもの成長を支えていきたいと思えます。特に遊びから育つ**自立心**に目を向け、「与えられた、教えられた」という感覚をできるだけ少なくし、**子ども自身が掴んでいく学び「自分でできるようになった喜び**」に視点を置きます。

《2019年度の目標で「3年間の成長（発達段階）を見据えていく」とありますが、2020年度も引き続き大切にしていきますので、「**発達段階を見据える**」という点に触れておきます》

《家庭の日常の暮らしと園生活を接続させていく》

「熱中して遊ぶ経験」のスタートは朝の登園から始まります。登園時の気分が一日を左右します。お家での朝は、カーテンが開けられ朝の陽ざしが入るお部屋で「おはよう」と起きて、一緒に朝ごはんを食べる当たり前(普通)の**日常**から始まると思います。そして、おうちの方に見送られ、**心が安定して元気に登園できることが「熱中して遊ぶ経験」には一番いいこと**です。年齢が小さいとなかなか朝のスタートは難しいこともあるかと思えます。少しずつお子さんが幼稚園生活のリズムに乗れるように、ご家庭の早寝・早起き・朝ごはん、生活習慣等の**日常生活のリズム**を整えてあげてください。

特に遅刻が当たり前にならないように、おうちの方の心がけと意識が幼稚園生活のスタートをスムーズにする秘訣です。

《2020年度、年少組の重点目標》は、個人差が大きい年少児、特におうちの方から離れる園生活の見通しもないまま始まりますので、たくさんの不安を抱えています。その意味でも年少組は独自の重点目標を掲げました。いろいろなことを急がず、ゆっくり成長することを支え、社会生活のスタートになる入園で、先ず楽しさを感じ、この実感が次の学年の楽しみに繋がる**連続性**を捉え、取り組んでいきます。

**【2020年度、重点目標】**

- ・「自分でできるようになった」ことを喜び、一人ひとりの自信に繋げ、自立心を育てる。  
—おうちの方と協力して—
- ・年少組：お友だちと一緒に遊び、生活する楽しさを感じていく。

**【まとめ】**

おうちの方が熱心に、子育てや幼稚園教育に関心を寄せていただき、いつもその熱心さに感銘と感謝をしております。その期待にお応えできるように、これからも子どもたちの「健やかな成長」を願う幼稚園教育の質を高め、子どもたちが一緒に通う仲間と共に、楽しく穏やかに過ごせる環境を整えることに努めてまいります。

**3. 学校評価結果の取組み**

評 価 項 目	取 組 み 状 況
「おうちの方の学校評価」を実施。評価項目別に採点を集計し、自由記述の意見をまとめました。	意見を参考に、幼稚園の環境や教育活動を振り返り、改善点を見出しました。その一部は2月開催の2019年度、第2回 PTA 総会で報告。改めて「おうちの方の学校評価」の報告書は配付させていただきます。
教員の自己評価（自己課題の設定と課題への自己評価）を実施。	「教員自己評価」をもとに、子どもとの関わり、おうちの方との連携、幼稚園が取り組む課題を考えました。良い点は伸ばし、不十分な点は改め、新年度、向上していけるように努めます。